

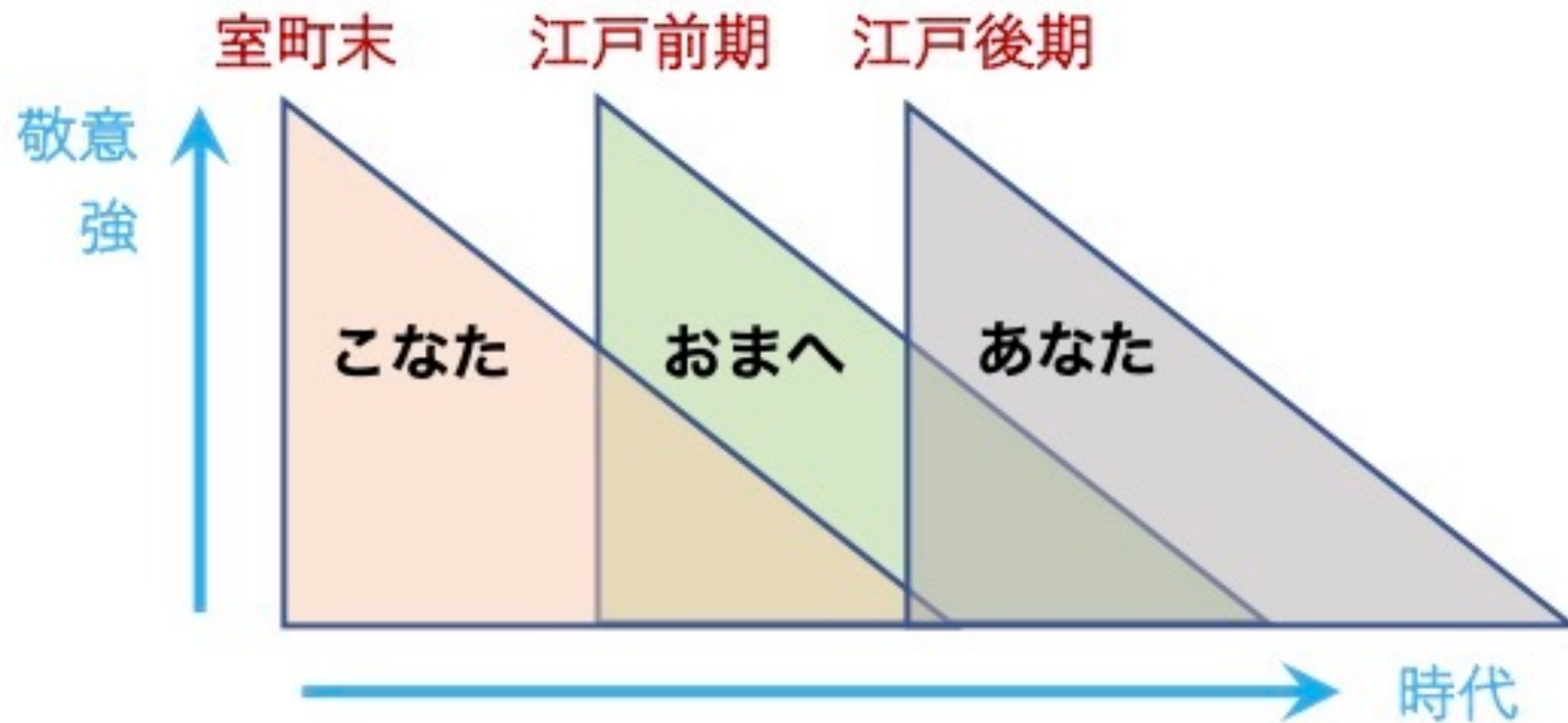
敬意漸減（敬意遞減・敬意低減）

■江湖山恒明（1943）「敬意の漸減と漸増」 pp.138-152

敬語といふものは、その語が登場して来てから暫らくの間は、語感も新鮮であり、その語に伴つてゐる敬意も濃厚であるが、段々使ひ馴れてゐる中には、次第に敬意が希薄になつて行くものであつて、かうした点を、国語学者は「敬意漸減の法則」として指摘してゐるのである。そして、一旦その語の持つ敬意が希薄になつてしまふと、敬意を持つ接頭語や接尾語を添加して、最初の頃の敬意を保持せしめるといふやうな補強工作を施すとか、或は、他から全然異なる語彙を拉し来つて代用するとか、と云つたやうな種々の手段や工夫を加へて、鮮明濃厚な敬語を確保する事に努力してゐるのである。（138）

以上は、一つの人称代名詞について考察したものであるが、同様な事は、大部分の敬語について云ひ得られる事であり、敬意漸減の法則が存在するといふ事は否定出来ないのである。…、日常普通に頻繁に用ひられる語は、その進行過程に遅速の差は見られるが、いづれも敬意漸減の法則適用を免れる事は不可能である。（144）

人称代名詞の近世前後における敬意漸減



“食べる”ことの敬意漸減

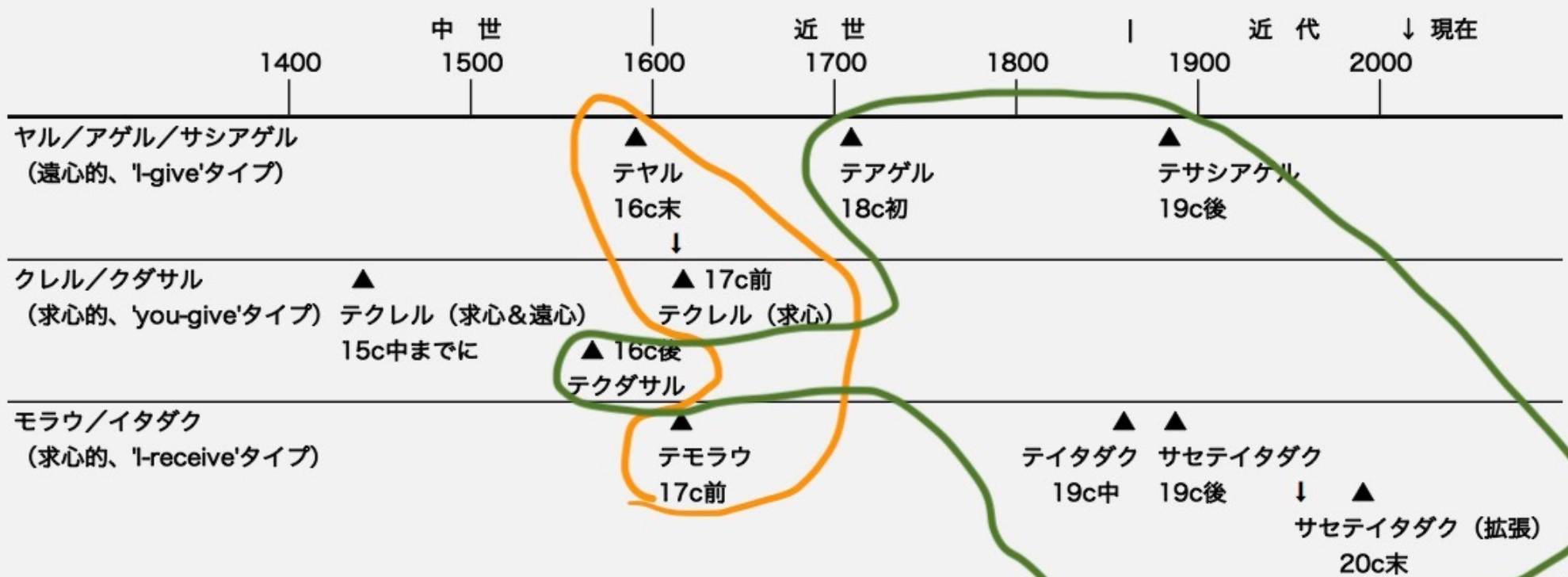
“食べる”ことの禍々しさ・生々しさ

→ 丁寧に言わないと自分が下品に、、？

食む > 食う > 食ぶ (> 食べる) > いただく

元は“頂戴する”意の謙譲語だった！

日本語ベネファクティブ年表 (荻野 2007、日本国語大辞典などを参考に作成)



ヤル系の敬意漸減(「**てあげる**」「**てさしあげる**」)

- (1) たき三郎も引きつづきてあとより上ると、ほどなくあつらえたもの来たりて酒はじまる。うなぎも又来たる。主、お玉をよびて、「コレ、若だんなにお酌でもしてあげねえか。気のきかねえ。」
玉、「ハイハイ」とはずかしそうにすわっている。 (洒落本「花街鑑」1822年)
- (2) 植えてから、六年になりますのよ。ほら、こんなに根株が太くなって、毎年、いい花が咲きますよ。なあと、その畑で毎日ほたらしている百姓でございますもの、ちよいちよい来ては手入れして差し上げます。旦那さま、あたしらの畑にはダリヤでも、チュウリップでも、草花たくさんございます、こんどまた、お好きなものを持って来て植えてあげますよ。(太宰治「善蔵を思う」1940年)
- (3) (ある情報を求められて) 教えてあげてもいいけど、まあ条件次第かな？
- (4) お子さんにはなるべくたくさん、本の読み聞かせをしてあげてください。
- (5) (肉の焼き方を説明しながら) ここでホイルにくるんでしばらく寝かせてあげてください。
- (6) ??では、手に入り次第、送って差し上げます。(??=かなり不自然)
- (7) ぜひ読んでみたいと仰るので、送って差し上げました。

モラウ系「ていただく」の敬意漸減 (丁重語化・美化語化)

(8) 社長さんに会社を案内していただいた。(謙讓語的)



(9) こうして日々生かしていただいていることに、もう感謝しかない。(丁重語的)



(10) おいしくいただいでください。(ウェブサイト検索で類例多数; 美化語的)

(11) 自分で塗るのが難しい人は是非友達や彼女に塗っていただいでください。
(日本語ウェブコーパス: ブログ、メンズ用ネイルの紹介文; 美化語的)